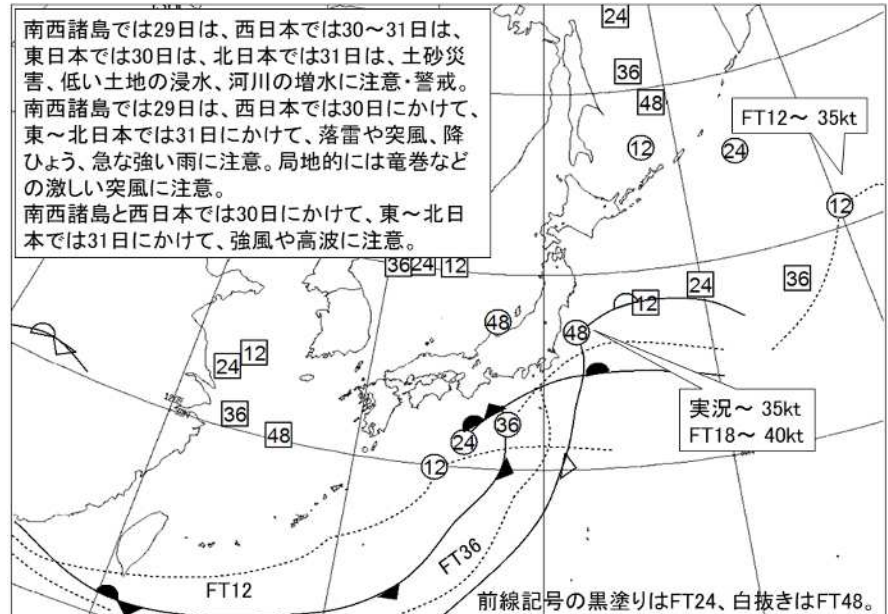


1. 実況上の着目点

- ① 前線が華南から南西諸島を
通って日本の東へのびており、
前線上の沖縄付近には低気圧が
あって東進。前線に向かって下
層暖湿気が流入し、南西諸島近
海では活発な雷を検知し1時間
に30mm以上の激しい雨を解析。
- ② 500hPa 5700m付近で-18℃以
下の寒気を伴う寒冷渦が朝鮮半
島付近にあって南東進。朝鮮半
島で活発な雷を検知。その他、
西～東日本では上空の寒気と日
中の昇温の影響で大気の状態が
不安定となっており、雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と 防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は南西諸島付近を通過して29日夜にはキンクとなる。代わって前線上の日本の南で低気圧が発生して北東進。この低気圧や閉塞点から発生する低気圧が伊豆諸島から関東の東を進み、31日夜には東北地方沿岸に進む。前線や低気圧に向かって850hPa θ e345K以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島では29日は、東日本太平洋側では30日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項②の寒冷渦は、30日は西日本、31日は日本海へ進む。上空寒気と日射による昇温の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴って強い雨の降る所がある。西日本では30日にかけて、東～北日本では31日にかけて、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 31日は、2項②の寒冷渦直下の日本海に低気圧が発生し北上する。この低気圧と、2項①の低気圧の影響で、西日本日本海側では北西よりの、北日本太平洋側では東よりの風の吹き付けで、降水が継続し総雨量が多くなり大雨となる所がある。西日本日本海側では30～31日は、北日本太平洋側では31日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。
- ④ 2項①や③の前線や低気圧の周辺や、29日にオホーツク海を進む低気圧と高気圧との間では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くしけとなる所がある。南西諸島と西日本では30日にかけて、東～北日本では31日にかけて、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。なお、2項①や③の低気圧は、モデル間や初期値による差があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：伊豆諸島250、東海・関東甲信100mm。

② 波浪(明日まで)：東北・関東・伊豆諸島・東海・近畿4m、四国・九州南部・奄美・沖縄3m。

③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。(南西諸島、)西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。